

INTERIM REPORT

第 36 期 中間報告書

平成25年4月1日 ~ 平成25年9月30日



夢を持って、美を求め、形にする。

私たち日本精密は「夢・美・形」の追求によって、はじめて輝く明日がやって来ると信じています。「実現できると信じる心」が、企業の継続と社員の幸せ、そして社会への貢献を実現する原動力となります。



DREAM. BEAUTY. FORM.

ごあいさつ

日本の“ものづくり技術”を世界へ。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は、「日本の“ものづくり技術”を世界へ。」をモットーに、1978年の創業以来、腕時計バンドの製造をメインにメガネフレーム等、精密部品加工業として業務を拡大してまいりました。

1991年以降、荒波のように変化する世界の経済状況に応じて常に業務革新を行い、主力製品である時計バンドの低価格化、マスプロダクト製品などの海外生産化を実現し、世界市場で勝てるコスト競争力に対応しております。

当社の『人材力』は、6つのチカラ「提案力・開発力・コスト力・技術力・品質力・管理力」をベースに国内一流企業や海外メーカーの高いニーズに応えております。

私たちメーカーの責任としてデザイン、ファッション、トレンドを常にキャッチアップし、絶えず斬新な発想で「高付加価値製品」を開発・提案・提供することで社会に貢献していける企業であるように社員一丸で臨みます。

さて、当社の第36期中間報告書（第2四半期連結累計期間、平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）をお届けするにあたり、ご挨拶をかね、ここに事業の概況につきましてご報告申し上げます。



代表取締役社長

岡林 博

平成25年12月

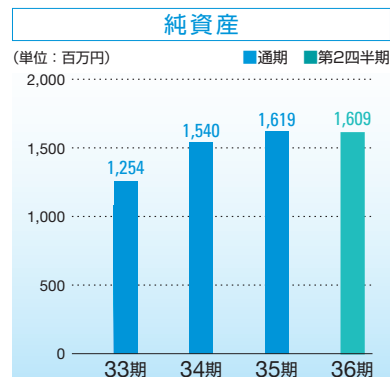
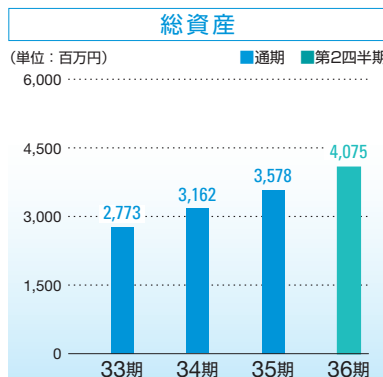
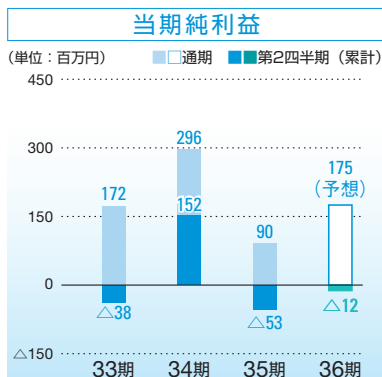
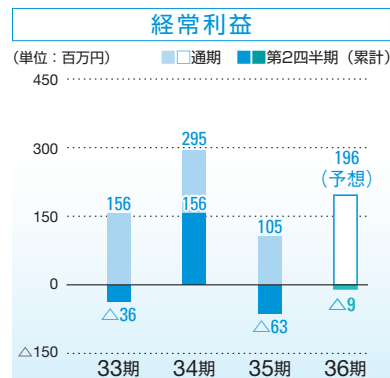
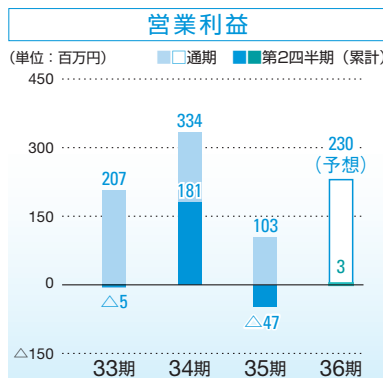
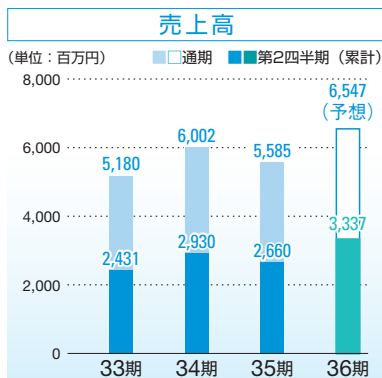
連結業績の概要

当第2四半期連結累計期間（以下、「当第2四半期」という。）における我が国経済は、新興国経済の減速懸念は依然として残るものの、新政権の積極的な経済政策や金融政策により、景気回復の方向に向かっております。

このような状況下、当社グループは、生産拠点をASEANエリアに有するという、コスト競争力を活かした営業活動のさらなる強化とともに、生産設備の増強などによる高品質な製品の安定供給の継続、また円安効果により、当第2四半期の連結売上高は3,337,000千円（前年同四半期は2,660,695千円）となりました。

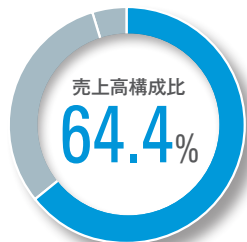
損益につきましては、売上総利益は製造子会社であるNISSEY VIETNAM CO.,LTD.は、ベトナムの最低賃金法の

改正に伴う給料手当の増加及び生産増加に伴う残業時間の増加、そして円安ベトナムドン高による人件費の大幅な増加の三重苦に直面し、これらが売上増加による利益の圧迫要因になっており795,521千円（前年同四半期は688,350千円）にとどまりました。営業利益は売上総利益が増加したことにより黒字に転換しましたが、(株)村井の契約更新に伴うロイヤルティの増加などにより3,043千円（前年同四半期は営業損失46,794千円）となりました。経常損失は営業利益が黒字に転換したため、赤字幅が縮小し9,974千円（前年同四半期は経常損失63,618千円）となりました。四半期純損失は12,294千円（前年同四半期は四半期純損失53,344千円）となりました。



セグメント別の概況

時計関連



売上高
21 億 47 百万円
(前年同四半期: 16 億 60 百万円)



セグメント利益
74 百万円
(前年同四半期:
セグメント利益14百万円)

▶ 営業の概況

時計関連の売上高は2,147,311千円となり、前年同四半期比486,360千円増加しました。このうち、国内大手メーカーからは、同社のさらなる事業拡大に伴う増産と当社グループの総合力が引き続き評価されたことによる新規及びリピートオーダーの受注増加に円安効果加わり、338,182千円の大幅増加となりました。また、スイスの高級時計メーカーへの売上は、高級品の需要は依然として低迷しているものの、提案型営業の強化による中級品の受注増加により157,377千円の大幅増加となりました。これにより、セグメント利益は74,297千円(前年同四半期はセグメント利益14,173千円)となりました。

※第1四半期連結会計期間より、従来の「時計バンド」から「時計関連」へとセグメント名称を変更しております。なお、セグメント名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

メガネフレーム



売上高
10 億 34 百万円
(前年同四半期: 8 億 35 百万円)



セグメント損失
74 百万円
(前年同四半期:
セグメント損失68百万円)

▶ 営業の概況

メガネフレームの売上高は1,034,726千円となり、前年同四半期比198,835千円増加しました。このうち、(株)村井は、大型チェーン店からの受注増加により、26,718千円の増加となりました。また、当社のメガネフレーム部門は、昨年獲得した新規取引先からの受注増加、大型チェーン店向けの提案型営業の強化などにより172,116千円の増加となり2.7倍増となりました。

しかしながら、(株)村井の粗利率の低い商品の売上割合の増加の影響が大きく、またロイヤルティの増加に加え円安による仕入コストの増加などもありセグメント損失は74,379千円(前年同四半期はセグメント損失68,894千円)となりました。

その他



売上高
1 億 54 百万円
(前年同四半期: 1 億 63 百万円)



セグメント損失
6 百万円
(前年同四半期:
セグメント損失2百万円)

▶ 営業の概況

その他の売上高は154,963千円となり、前年同四半期比8,891千円減少しました。釣具用部品は増加しましたが、静電気除去器が大幅に減少しました。これにより、セグメント損失は6,775千円(前年同四半期はセグメント損失2,900千円)となりました。

日本精密の生産体制

ASEAN地域での生産体制の拡充に向けて

● JAPAN

■ カンボジア新工場建設

カンボジア王国の東部に位置するベトナム国境沿いの町バベットに敷地129,600㎡を確保し（既存ベトナム工場の約5.7倍）、地理的に近い距離（約80km、車で約2時間）にある既存ベトナム工場とのシナジー効果の創出によるASEAN地域での事業拡大に向け、カンボジア新工場を年内の工場稼動を目指して建設中



※平成25年10月末撮影

（平成25年12月完成予定）



■ 基幹工場であるベトナム工場拡張工事

ベトナム社会主義共和国の東南部に位置する経済的中心地ホーチミン市に1994年操業したベトナム工場、生産体制の基幹工場であるベトナム工場の強化を図るため、工場の拡張工事ならびに従業員増加に伴う環境法令対応の新規排水浄化装置の設置工事を進行中



四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期末 平成25年9月30日現在	前期末 平成25年3月31日現在
資産の部		
流動資産	2,522,328	2,522,587
固定資産	1,552,822	1,056,108
有形固定資産	978,483	661,282
無形固定資産	475,069	302,621
投資その他の資産	99,268	92,204
資産合計	4,075,150	3,578,695
負債の部		
流動負債	1,804,179	1,314,142
固定負債	661,932	645,070
負債合計	2,466,112	1,959,212
純資産の部		
株主資本	1,610,992	1,623,320
資本金	1,565,875	1,565,875
資本剰余金	1,548,980	1,548,980
利益剰余金	△1,463,473	△1,451,178
自己株式	△40,390	△40,356
その他の包括利益累計額	△1,954	△3,838
その他有価証券評価差額金	△919	△2,986
為替換算調整勘定	△1,034	△851
純資産合計	1,609,038	1,619,482
負債純資産合計	4,075,150	3,578,695

四半期連結損益計算書

(単位：千円)

	当第2四半期 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	前第2四半期 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで
売上高	3,337,000	2,660,695
売上原価	2,541,479	1,972,345
売上総利益	795,521	688,350
販売費及び一般管理費	792,478	735,145
営業利益又は営業損失(△)	3,043	△46,794
営業外収益	9,324	11,647
営業外費用	22,341	28,471
経常損失(△)	△9,974	△63,618
特別利益	173	15,000
税金等調整前四半期純損失(△)	△9,800	△48,618
法人税等	2,494	4,726
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△12,294	△53,344
四半期純損失(△)	△12,294	△53,344

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	前第2四半期 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	64,401	92,126
投資活動によるキャッシュ・フロー	△598,061	△107,731
財務活動によるキャッシュ・フロー	358,769	△50,933
現金及び現金同等物に係る換算差額	9,491	△12,974
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△165,398	△79,513
現金及び現金同等物の期首残高	598,638	697,805
現金及び現金同等物の四半期末残高	433,239	618,291

会社概要 / 株式情報 (平成25年9月30日現在)

会社概要

商号	日本精密株式会社
設立	昭和53年8月
本社	〒332-0012 埼玉県川口市本町4-1-8川口センタービル8階 TEL: 048-225-5311 FAX: 048-226-5356
資本金	1,565,875千円
従業員	61名(連結2,809名)
事業内容	時計バンド及び時計外装部品の製造、販売 メガネフレームの製造、販売 イオンプレーティング(表面処理加工) 釣具用部品、静電気除去器、その他製品の製造、販売
主要な関係会社	NISSEY VIETNAM CO.,LTD. 株式会社村井 NS Murai Inc.

役員

代表取締役社長	岡 林 博
取締役	井 藤 秀 雄
常務執行役員	井 藤 秀 雄
取締役	白 坂 敬 次
上席執行役員	白 坂 敬 次
取締役	金 民 秀
取締役	権 經 訓
取締役	黄 仁 昶
取締役	権 敬
取締役	柳 奉 錫
常勤監査役	中 嶋 春 樹
社外監査役	佐 藤 和 彦
社外監査役	河 津 博 史
上席執行役員	朴 成 鎮
上席執行役員	新 井 富 之
上席執行役員	上 林 一 男
執行役員	山 田 幸 三
執行役員	守 屋 泰 豊
執行役員	黒 澤 泰 明

株式の状況

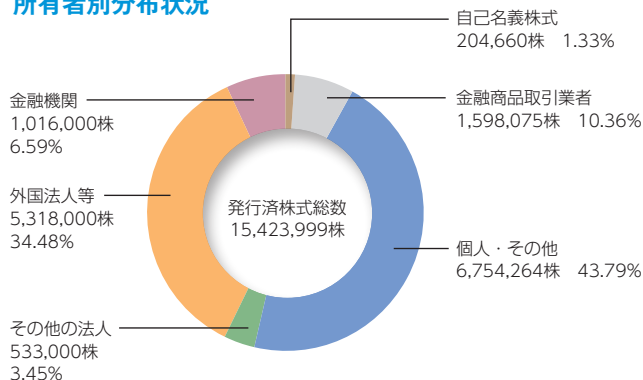
発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式総数	15,219,339株(自己株式204,660株を除く)
株主数	1,184名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社ジェンコ	3,000	19.71
ビーアンドエフホールディングス株式会社	1,204	7.91
株式会社SBI証券	827	5.43
日本証券金融株式会社	673	4.42
SKS TRADING USA株式会社	500	3.29
エイチエスピーシー ファンド サービシズ クライアーツ アカウント 006	425	2.79
井 関 清	379	2.49
松井証券株式会社	347	2.28
井 藤 秀 雄	260	1.71
日本精密社員持株会	236	1.55

(注) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 (JASDAQスタンダード)
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載 URL http://www.nihon-s.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

ご案内

●株式に関する住所変更等のお問合せおよびお届けについて
株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。
口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

●特別口座について
特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取り扱いいたします。

●未受領の配当金について
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。